

第Ⅲ章 整備計画

1. エリア整備計画

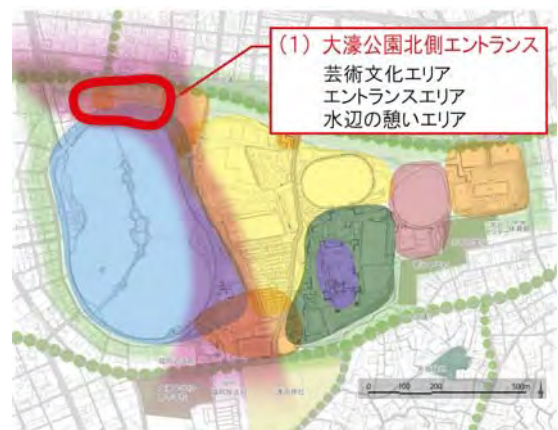
(1) 大濠公園北側エントランス

本編 P45 参照

■位置づけ

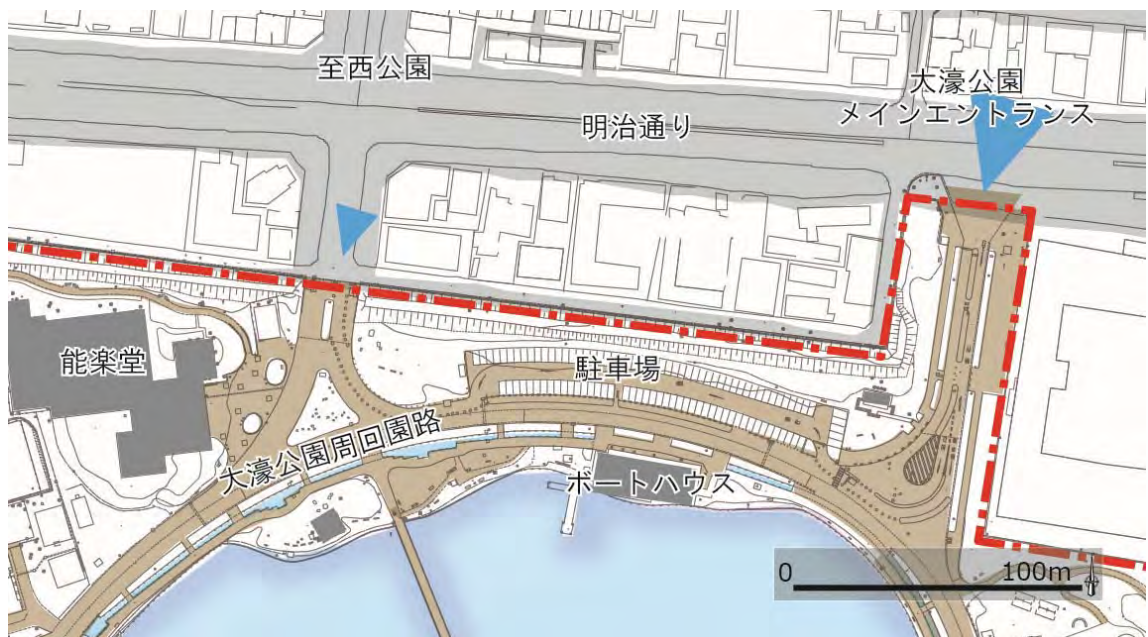
大濠公園北側は、地下鉄大濠公園駅から近く、明治通り側からのメインエントランスとして歩道や駐車場などが整備されています。芸術文化エリア、エントランスエリア、水辺の憩いエリアが重なる場所に位置しています。

北西側の入口は、能楽堂利用者が利用する入にもなっています。



図：大濠公園北側エントランス 位置

■現況と課題



図：大濠公園北側エントランス 現況図

- 安全性の向上**：メインエントランスの車両動線と歩行者動線が交錯する箇所があるため、車両動線と歩行者動線の整理が求められます。
- 見通しの確保**：メインエントランスから公園内部の様子が見えにくい為、見通しの確保が求められます。
- 景観の向上**：大濠公園の周回園路利用者から駐車場が見えるため、公園らしさに配慮した景観の向上が求められます。

■整備の方向性

a)歩車道動線の分離

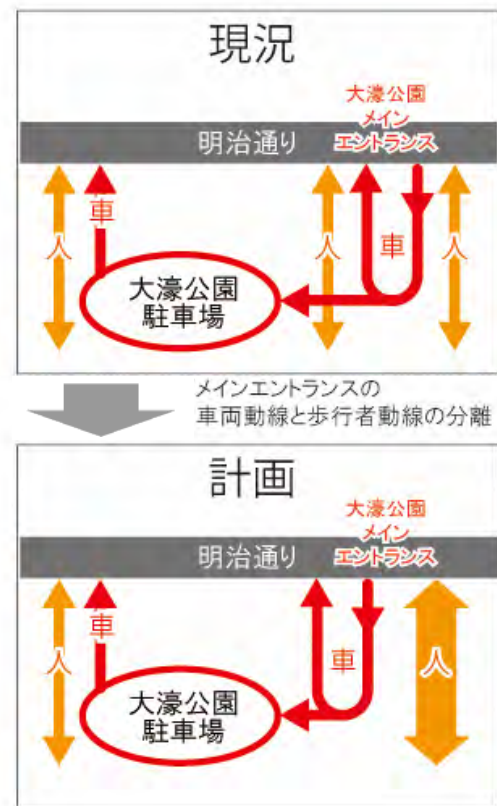
- ・大濠公園メインエントランスの歩行者動線と車両動線を分離し、歩行者が安心して歩くことができる環境を整えます。

b)明治通りから公園内への見通し確保

- ・大濠公園メインエントランスの歩道幅員の拡幅や樹木整理などにより、明治通り側から公園内を見通すことができるようにします。

c)駐車場周辺へのみどりの配置

- ・周回園路を利用する人々から駐車場が見えにくいようにするため、駐車場周辺にみどりを配置します。



■整備計画





大濠公園メインエントランスの歩行者と車両の動線が分離し、快適で安全に歩くことができるようにします。また、明治通りから公園内への見通しを確保し、水と緑の雰囲気を公園外からも感じることができるようにします。

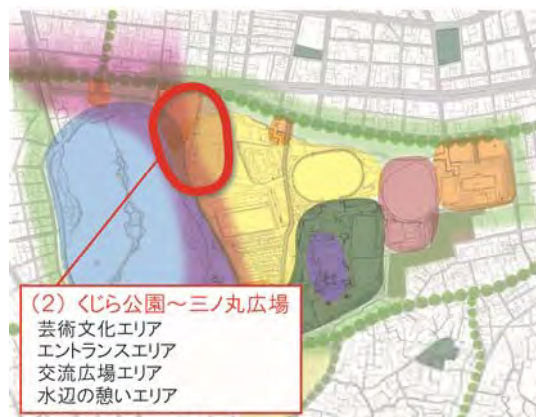
(2) くじら公園～三ノ丸広場

本編 P46 参照

■位置づけ

くじら公園から三ノ丸広場周辺は、大濠公園と舞鶴公園の境界部に位置し、両公園の一体的活用を図っていく上で重要な場所です。

両公園をつなぎ、芸術文化エリア、エントランスエリア、交流広場エリア、水辺の憩いエリアの4つのエリアが重なる場所に位置しています。



図：くじら公園～三ノ丸広場 位置図

■現況と課題

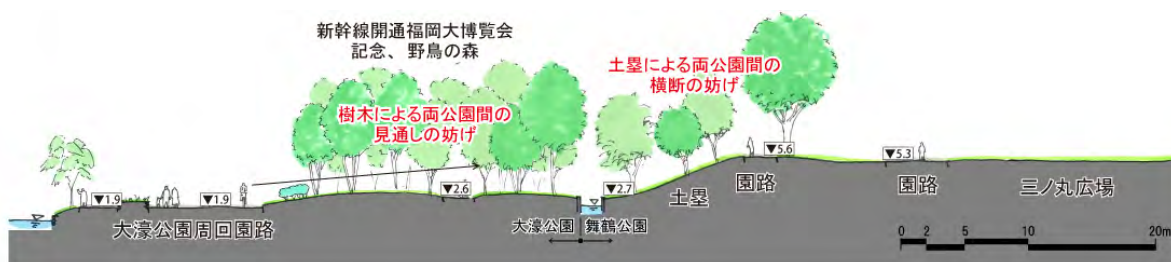
●**土塁の保存**：風雨等による土塁の土砂流出や歩行者の踏圧などによりき損している箇所が多く見られるため、土塁の保存が求められます。

●**両公園の空間的な一体化**：両公園の境界部は、土塁による高低差（5 m程度）と土塁上の樹木等によって公園間の動線や見通しが遮られています。両公園の一体的活用を図っていくためには土塁周辺部の空間的な一体化が求められます。

●**くじら公園の遊具の保存と更新**：くじら公園に設置されている大型遊具は子供連れの来訪者への人気が高く、公園のシンボルの一つとなっています。そのため既存遊具の適切な管理と老朽化に合わせた更新が求められます。



図：くじら公園～三ノ丸広場 現況図



■整備の方向性

a)土塁の保存と顕在化

- ・今後の発掘調査や文献調査等に基づき、本来の土塁の形状などを把握し、そのうえで覆土による土塁の保存と顕在化など、本質的価値を伝えるための適切な手法を検討します。

b)両公園の空間的な一体化

- ・既存樹木の整理を行い、両公園間の見通しを確保します。

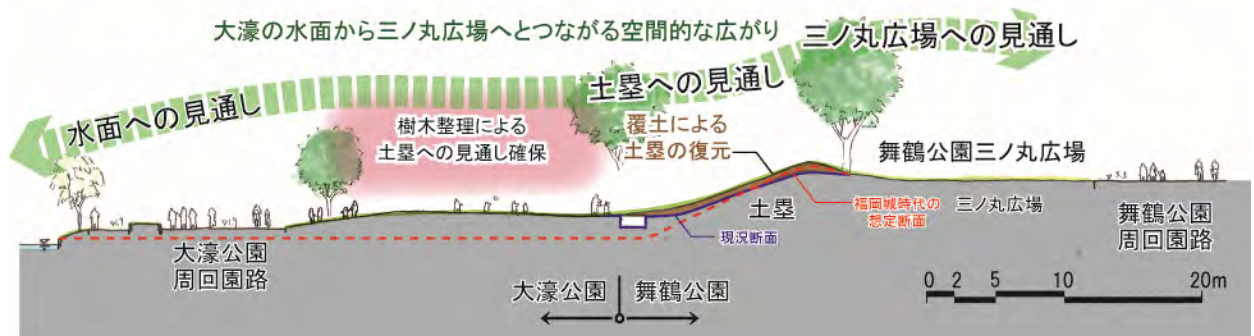
c)遊具の保存と更新

- ・適切な維持管理による大型遊具の保存とともに、その他の遊具については老朽化に合わせて芸術性の高い遊具への更新を行います。

■整備計画



図：くじら公園～三ノ丸広場 整備計画図



図：断面 A イメージ図



樹木の整理と覆土による土塁の復元により、大濠の水面から三ノ丸広場へとつながる空間的な広がりや公園間の見通しを確保します。また、両公園間の回遊を促進する動線の強化や、小規模イベントなどを開催できる広場の設置を行います。

(3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅

本編 P47 参照

■位置づけ

舞鶴中学校跡地・城内住宅では、既存の関連計画の中で、移転跡地を活用した広場整備や、暫定駐車場の設置、福岡城の地割の表現などが謳われています。

芸術文化エリア、エントランスエリア、交流広場エリアが重なる場所に位置しています。



図：舞鶴中学校跡地・城内住宅 位置

■現況と課題

城内住宅については、引き続き城外への移転推進が求められます。舞鶴中学校跡は、移転跡地を有効に活用するとともに、城内住宅移転完了のタイミングとの調整を踏まえた施設の撤去が求められます。また、移転跡地では福岡城の全容解明に向けた発掘調査が求められます。



①舞鶴中学校跡



②タイムズ福岡城三ノ丸駐車場



③三ノ丸スクエア



④第2駐車場



⑤城内住宅跡地



⑥城内住宅



⑦三ノ丸広場



⑧園路



図：舞鶴中学校跡・城内住宅 現況図

■整備の方向性

a)広場空間の確保

- ・大規模なイベントにも対応できる、開放的な広場空間を確保します。

b)地割の表現

- ・公園利用者の動線に配慮しながら、舗装や縁石などで福岡城の地割を表現します。

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡地外に確保することを原則とします。

d)サクラの名所づくり

- ・遺構などに物理的・視覚的に影響の少ない箇所を選び、サクラを植えることで名所づくりを進めます。



図：福岡城絵図と現在の地形の重ね図

■整備計画



交流広場では、福岡城の地割の表現を行うとともに、石垣や大濠公園の水面への見通しを確保し、歴史的な雰囲気や水と緑の豊かさを感じることができるようになります。また、設備の強化を行い様々なイベントに対応できるようになります。



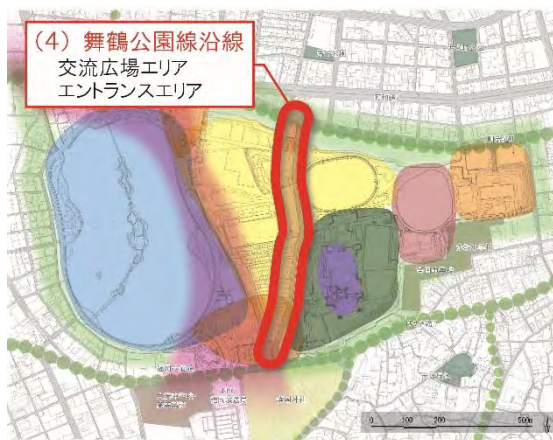
図：舞鶴中学校跡地・城内住宅 整備計画

(4) 舞鶴公園線沿線

本編 P48 参照

■位置づけ

交流広場エリアは都市計画道路舞鶴公園線により分断されています。大濠公園と舞鶴公園の一体的活用を図り、一体的な交流広場エリアの雰囲気を作っていくためには、舞鶴公園線を横断する回遊動線の確保が重要となります。また、舞鶴公園線沿線の北側と南側はエントランスエリアと重なっており、これらのエントランスエリアと、芸術文化エリアや福岡城二ノ丸エリア、交流広場エリアなどを縦につなぐ回遊動線の確保も重要です。



図：舞鶴公園線沿線 位置図

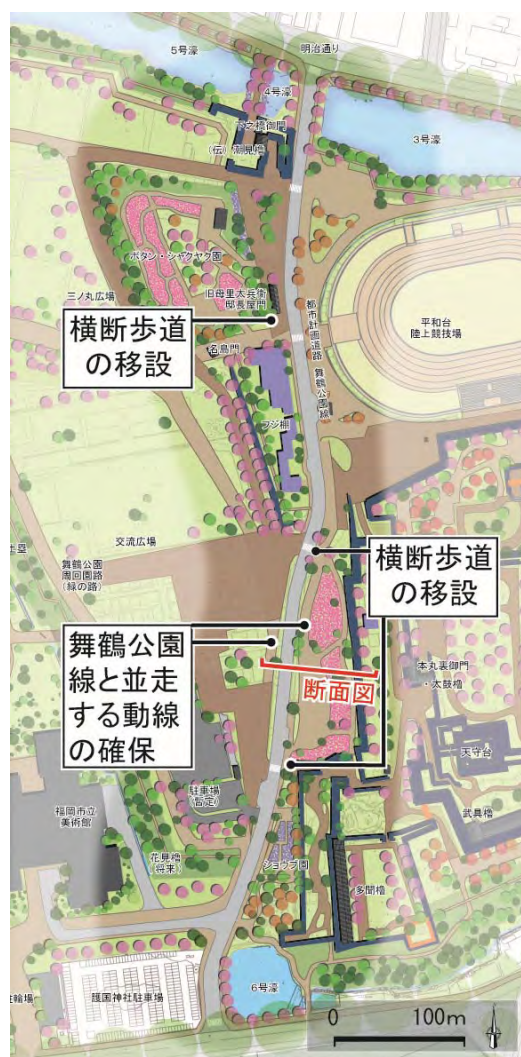
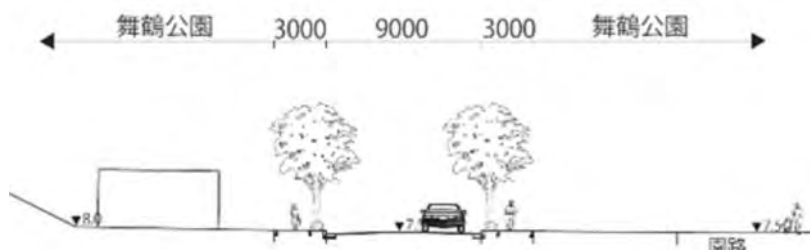
■現況と課題

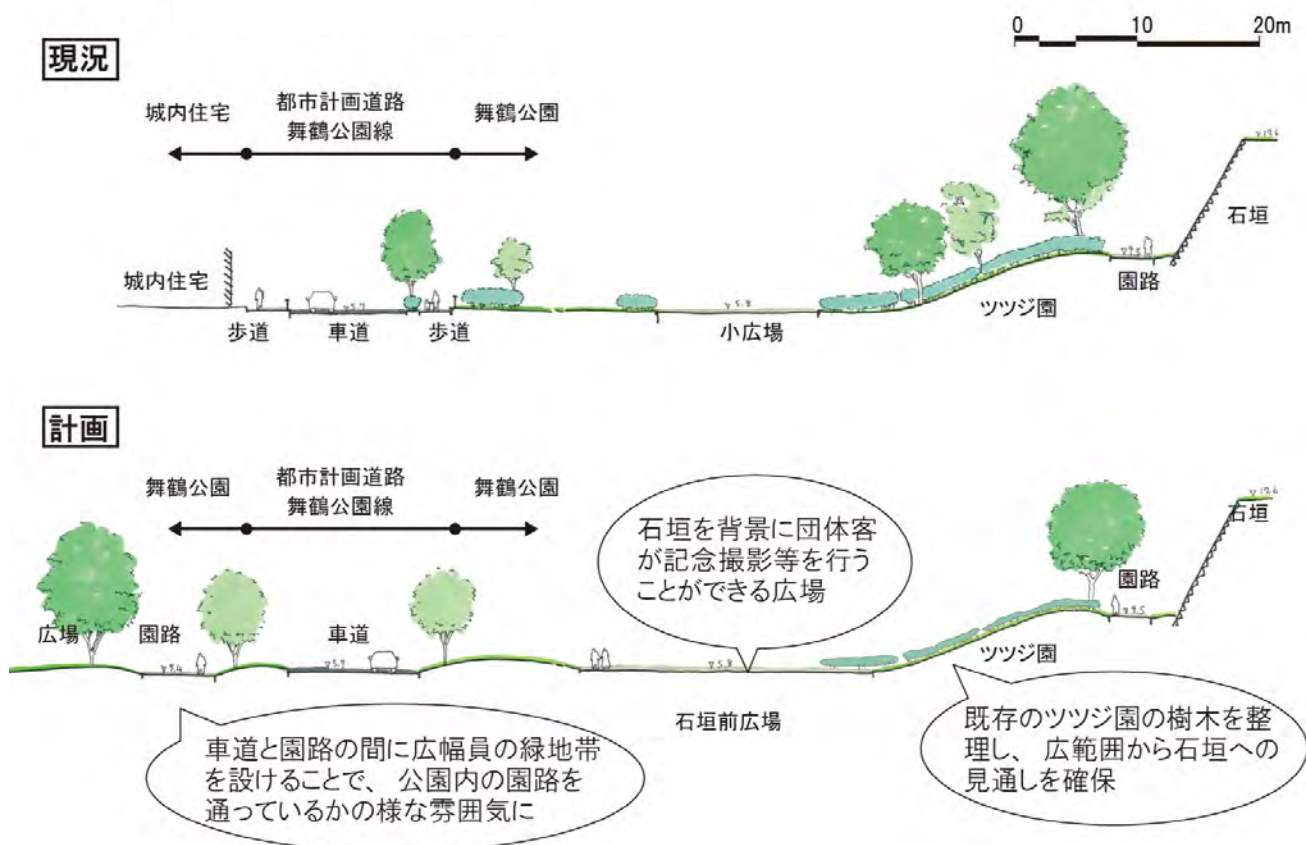
- 回遊性強化**：現在舞鶴公園線を横断する動線として横断歩道が設置されていますが、公園利用者の動線とは合わない位置となっています。また、城内住宅等により舞鶴公園線と並走する動線は確保できていない状態です。舞鶴公園線を横断する動線と、並走する動線の強化が求められます。



図：舞鶴公園線沿線 現況図

公園利用者に加え、舞鶴公園線を通行する車や歩行者がこれらの景観を楽しむことができるよう、周辺景観に調和した沿線の空間づくりが求められます。





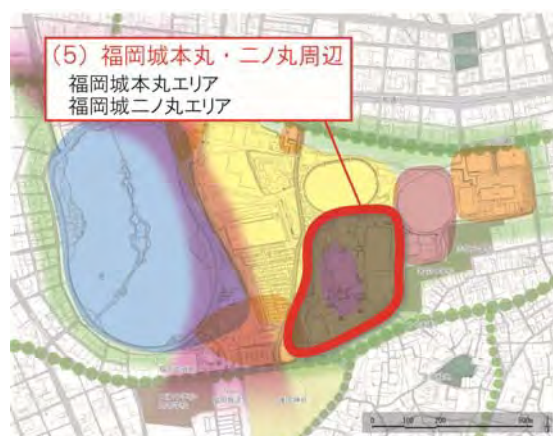
舞鶴公園線の車道と園路の間に広幅員の緑地帯を設け、公園内の園路を通っているかのような雰囲気づくりを行います。既存のツツジ園の樹木が整理され、石垣への見通しを確保し、石垣を背景に記念撮影等を行うことができる広場を設置します。

(5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺

本編 P49 参照

■位置づけ

福岡城本丸・二ノ丸周辺を含め、舞鶴公園全体として、福岡城跡に関わる整備検討は、平成26年6月に策定された「国史跡福岡城跡整備基本計画」をもとに進めます。ここでは、福岡城本丸・二ノ丸周辺について、「国史跡福岡城跡整備基本計画」に示された内容を基に整備の方向性や整備計画を整理します。

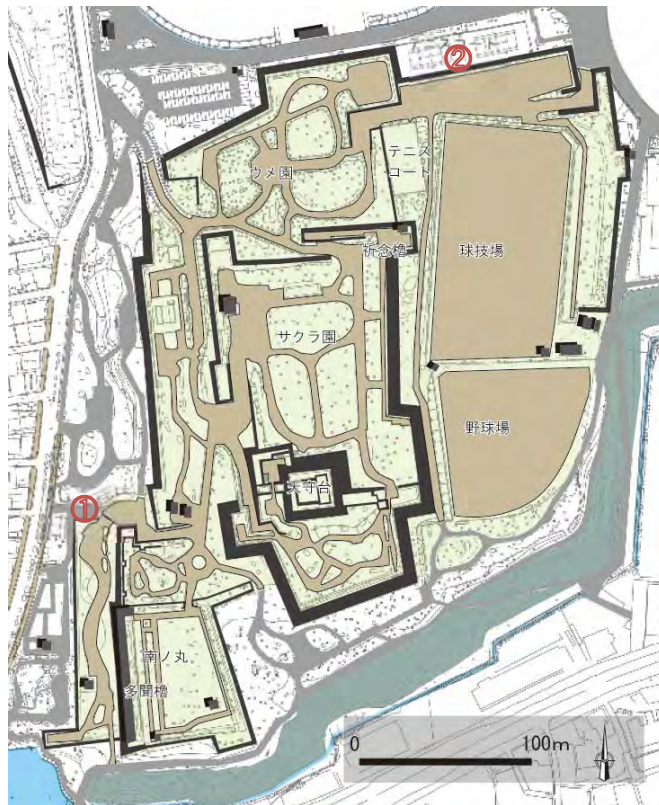


図：福岡城本丸・二ノ丸周辺 位置図

■現況と課題

分類	整備上の課題および留意点
歴史的環境	・ 地下遺構の残存状況の把握。 ・ かつて九州を代表する城郭（47以上の櫓、10を超える門）であったことが、理解できる整備の実現。 ・ 石垣の傷みや不安定箇所、消失箇所の改善。 ・ 城絵図で描かれた階段（東御門内、扇坂御門内、松木坂御門内）や庭園等(水の手)の存在が理解できる整備の実現。
自然的環境	・ 名所化した公園樹木（サクラ等）と歴史的景観復元に向けた整備との方向性の調整。 ・ 石垣内に自生した高木による遺構保存への影響回避。 ・ 多数植えられた外来種の適切な処置。
社会的環境	・ 老朽化した展望施設の更新。 ・ 史跡巡りに配慮した便益施設の効果的な配置やユニバーサルデザイン化への見直し。 ・ 史跡に関連のない施設等の移転の推進。
景観	・ 樹木（高木～低木）の生育により遮蔽された建造物や石垣の顕在化。

※「国史跡福岡城跡整備基本計画」より



図：現況図

■整備の方向性

a) 城郭としての景観づくり

- ・石垣や櫓等の城郭景観を伝える遺構への見通しを確保します。
- ・当初は直線で構成されていたと考えられる地割を表現します。
- ・真正性を確保できる遺構の修復・復元を進めます。

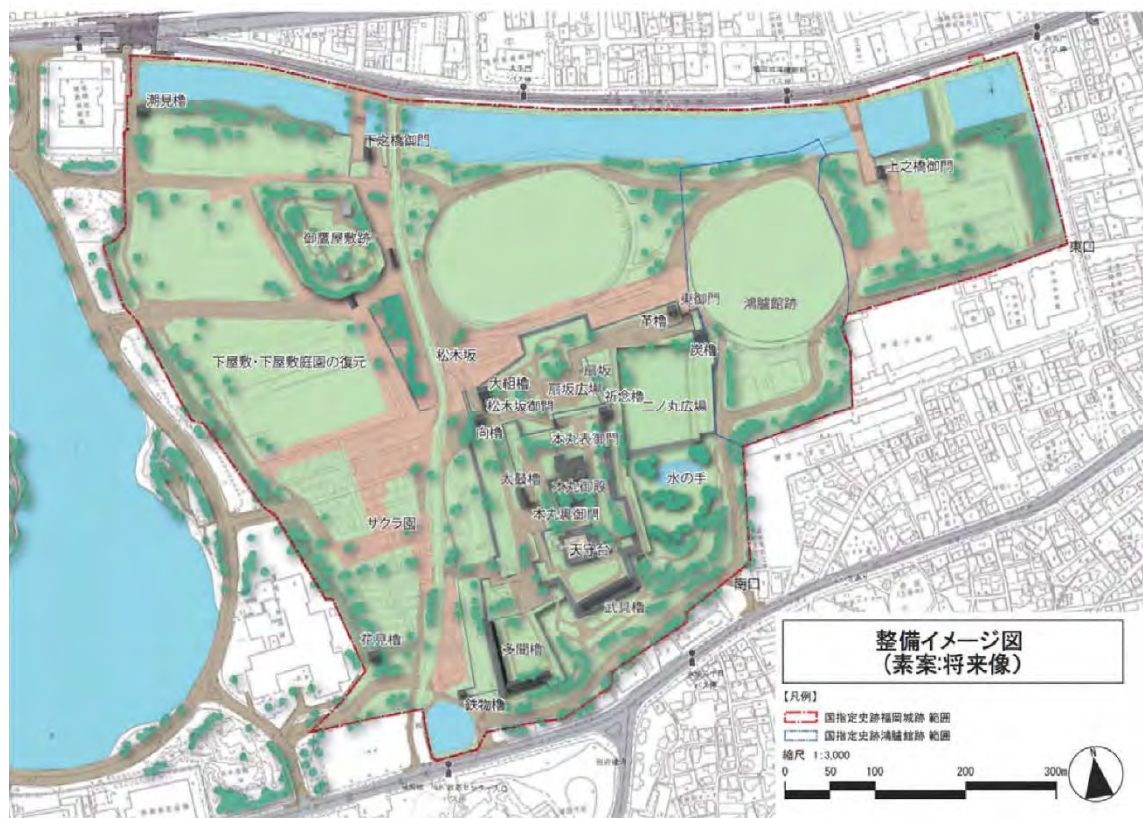
b) 城郭景観の保全

- ・本丸、二ノ丸の二つの郭を取り込んだ範囲を設定する。
- ・城郭としての景観が最も遺存しており、景観保全の面や現在の利用形態からも一体的な保存整備が可能なゾーンとなることが期待される。

⇒歴史的建造物や庭園等の復元整備、石垣の保存・修景に努め、城郭としての景観保全を重視した整備を行う。

※b) は、「国史跡福岡城跡整備基本計画」で推進

■整備計画



図：基本計画図（将来像） ※「国史跡福岡城跡整備基本計画」より



図：整備イメージ（将来像） ※「国史跡福岡城跡整備基本計画」より

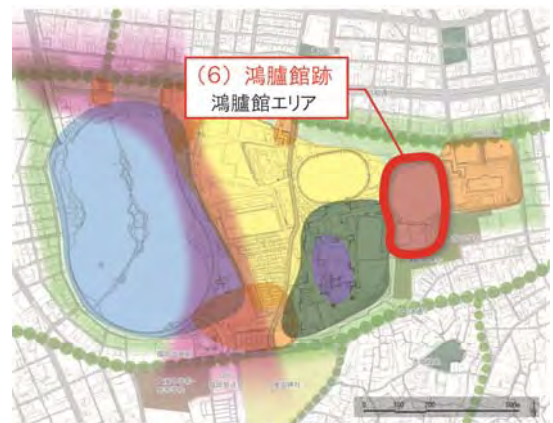
失われた櫓等の復元により、特に城郭の中心となる本丸、二ノ丸では、福岡城を体感することができます。天守台からの眺望は、自然地形を巧みに取り入れた城の地選の見事さ、城郭の広大さ、全体構成を感じることもできます。

(6) 鴻臚館跡

本編 P50 参照

■位置づけ

平成 27 年 3 月に「鴻臚館跡整備基本構想」が策定され、現在「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」の策定が進められています。鴻臚館跡の史跡指定範囲内の具体的な整備内容は「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」で検討を行うこととします。



図：鴻臚館跡 位置図

■現況と課題

- ・ 継続的な調査の計画や体制
- ・ 本質的価値をどのように顕在化させるか
- ・ 鴻臚館が存続した時代を体感できる空間づくり
- ・ 福岡城跡と調和した景観づくり
- ・ 公園としての機能や景観に配慮した歴史的観点からの検討
- ・ わかりやすい情報発信
- ・ 史跡地のマネジメントへの積極的な市民参加



図：鴻臚館跡 現況図

■整備の方向性

a) 鴻臚館跡の価値の保存・継承と効果的な情報発信の実現

- ・ 鴻臚館の全容解明に向け、その価値を明らかにしながら保存・継承を前提に、効果的な情報発信を併せて行います。

b) 歴史の重層性の実感できる表現

- ・ 古代鴻臚館の歴史的価値に沿った整備を図るものとし、公園全体及び周辺を含めた、歴史の重層性が理解できるような表現を目指します。

c) サイトミュージアムと都心部の貴重なオープンスペースの融合

- ・ サイトミュージアムの一翼を担えるよう、多様なニーズに対応できるオープンスペースとしての活用を視野に入れた整備を目指します。

d) 国際交流空間としての機能の再生

- ・ 福岡の新たな交流空間としての活用や観光交流コアとなるよう、かつて鴻臚館が有していた交流空間としての機能を現代的に見直します。

e) 海路や古代官道がつないだ関連史跡等との広域ネットワーク連携

- ・ 海路や古代官道を介した関連史跡とのつながりを史跡ネットワークとして強化し、広域観光への展開も視野に入れた活用を目指します。

f) 多くの来訪者が繰り返し利用し続けることのできる空間の創出

- ・ 来訪者と価値観の共有を図るため、多くの来訪者が利用し続けることのできる空間を創出することを目指します。

※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より

■整備計画



図：基本計画図（短・中期整備） ※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より



図：基本計画図（長期整備） ※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より



図：短・中期整備イメージ図



図：長期整備イメージ図

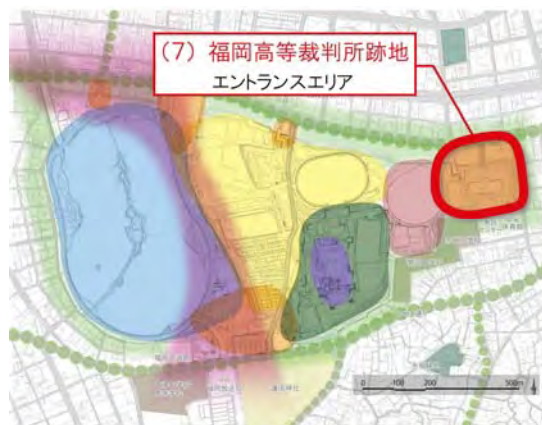
※「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」より

(7) 福岡高等裁判所跡地

本編 P51 参照

■位置づけ

福岡高等裁判所跡地は博多・天神方面からの公園への入口にあり、エントランスエリアと位置付けています。鴻臚館跡に関連する遺構が地下に残っていることが想定されている場所であるため、高等裁判所跡の解体後にはまず、発掘調査を行うこととしています。そのため、計画の具体的な内容については発掘調査による遺構などの検出状況を考慮した上で、再度検討することとします。



図：福岡高等裁判所跡地 位置図

■現況と課題

福岡高等裁判所跡地については、六本松で新庁舎の整備が進められています。施設移転後には、建物の解体のタイミングと調整を図ったうえで、鴻臚館跡や福岡城跡の全容解明に向けた発掘調査が行われます。



図：福岡高等裁判所跡地 現況図



①明治通り側より



②高等裁判所入口



③鴻臚館広場側より



④上之橋御門跡

■整備の方向性

a)総合案内施設の配置

- ・来園者が古代から現代まで連なる福岡の歴史の重層性をエントランスエリアで学んでから現地を散策することができるよう、(仮称) セントラルパーク総合案内施設を設けます。

b)地割の表現

- ・上之橋御門からの歩行者動線を舞鶴公園へのメインエントランスとして捉え、福岡城の地割を表現します。

c)暫定駐車場の確保

- ・大型の観光バスも駐車することができる暫定駐車場を確保します。なお、駐車場は将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

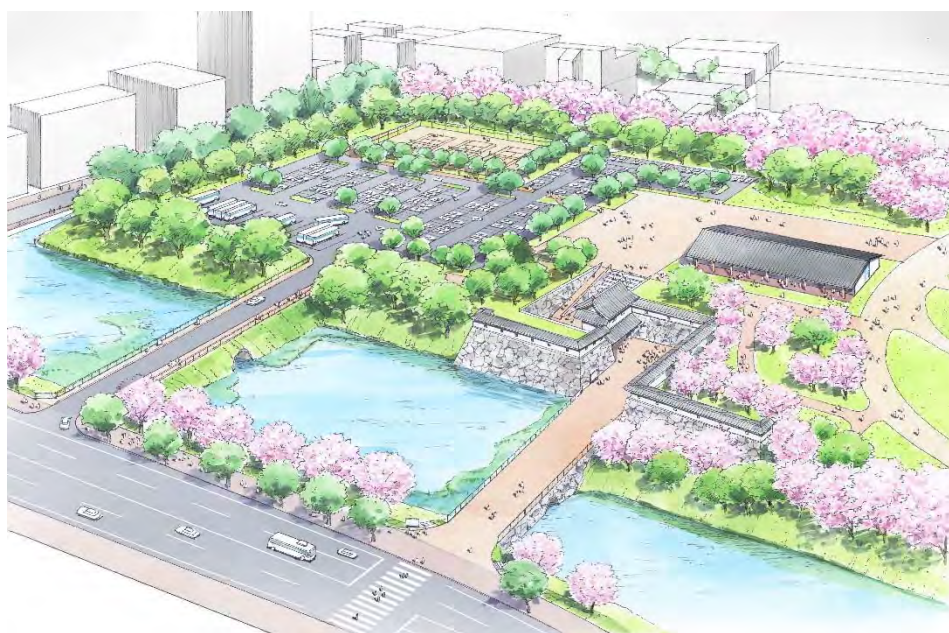
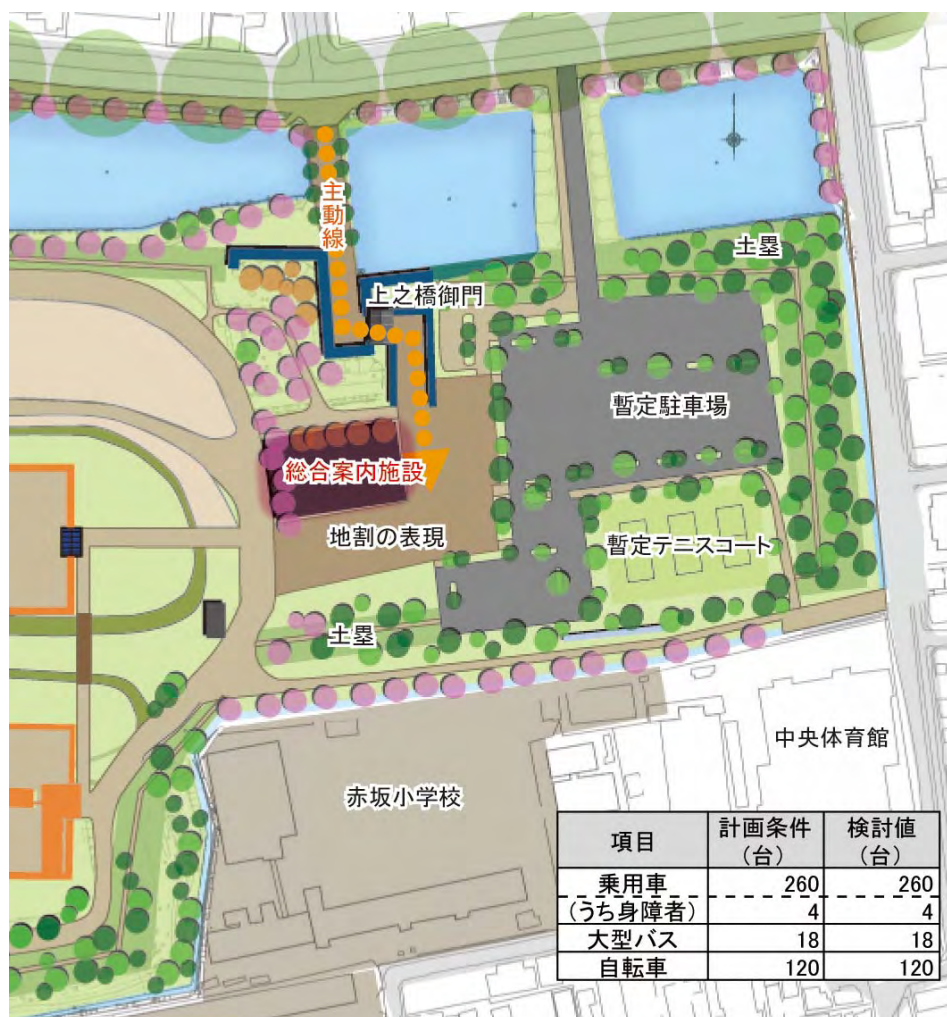
d)安全安心を支える防災拠点としての機能確保

- ・災害時の博多・天神方面からの避難者の受け入れに備え、避難スペースや避難路、災害時に必要な設備の確保を図ります。

e)テニスコートの暫定整備

- ・現在、テニスコートは石垣の目の前に位置しているため、景観的に影響の低い場所に再配置します。なお、将来的には史跡区域外に確保することを原則とします。

■整備計画



舞鶴公園へのメインエントランスとして、上之橋御門からの歩行者動線を確保し、総合案内施設を設置します。また、大型の観光バスも駐車できる暫定駐車場を確保します。(高等裁判所跡地の発掘調査の結果により、変更となる可能性があります。)

(8) 大濠公園南側エントランス

本編 P52 参照

■位置づけ

福岡市美術館・日本庭園は園路を挟んで隣接しており、芸術文化エリアの中でも芸術文化施設が集中した場所に位置しています。また、この位置は大濠公園への南側からのメインエントランスでもあります。

福岡の芸術文化発信拠点として、芸術文化の雰囲気が施設内にとどまらず、周辺へと広がりを見せるためには、施設自体の魅力やアプローチのしやすさが重要です。



図：大濠公園南側エントランス 位置

■現況と課題

- アプローチの改善**：福岡市美術館は、大濠公園周回園路に開かれた新しい入口が設けられ、アプローチが改善されましたが、舞鶴公園側からの導線はわかりにくい状態です。
- 施設の魅力向上**：日本庭園は、大濠公園の周回園路から入口が奥まった位置にあるため、その存在がわかりにくい状態になっています。



図：大濠公園南側エントランス 現況図



①福岡市美術館



②日本庭園



③舞鶴公園第2駐車場



④福岡市美術館から多聞櫓方向への眺め

■整備の方向性

a)アプローチのしやすさの向上

- ・舞鶴公園線から福岡市美術館へのアプローチをさらに改善するため、舞鶴公園第2駐車場の移転跡地を活用し、園路を設けます。

b)施設の認知度の向上

- ・大濠公園の周回園路側から日本庭園の存在を感じ取ることができるような雰囲気作りを行います。また、日本庭園の認知度向上に向けた取組みを進めます。

■整備計画



- ・福岡市美術館の
リニューアル
(魅力向上、機能回復、
ユニバーサルデザインへ
の対応：大濠公園周回
園路からのアプローチの
新設、カフェの新設、コ
レクション展示室・収蔵
庫・ギャラリーの拡充、
美術情報コーナー、ア
ートスタジオの設置等)

- ・舞鶴公園第2駐車場の
跡地を活用した、舞鶴
公園線からのアプローチ
動線の設置



舞鶴公園第2駐車場の跡地を活用し、舞鶴公園線からリニューアルした福岡市美術館へアプローチできる園路を設置します。園路からは福岡城の多聞櫓や石垣への見通しを確保することで、両公園の回遊性を向上します。